

奈良県東北部村落における宮座の組織と儀礼 室生村多田・染田を中心に 上野和男

The Miyaza System and Rites in Northeastern Nara Prefecture

①問題

- ②多田の宮座
- ③染田の宮座
- ④結語

【論文構成】

本稿は、一九九七年以降の現地調査もとづいて、奈良県東北部に位置する室生村東里地区の宮座組織と祭祀儀礼の構造について、多田と染田の二つの集落を中心考察する調査報告である。本稿の主要な課題は次の二点である。第一は、宮座の家族レベルの構造原理である当屋制と、個人レベルの構造原理としての年齢序列がどのようにかかわっているかを、事例に即して考察することである。ここで対象とする地域においては、年齢順に着座したり祭祀の執行にあたるなど、年齢序列が一定の重要性を保持してきたことは事実である。したがってこの問題はこの地域の宮座が、宮座一般論に提起する問題のひとつである。と考えられる。第二は、宮座儀礼の構造の問題のひとつとして、宮座が実際にさまざまな祭祀を行う場合、その方法の問題がある。これはすなわち、特定の当屋に祭祀的役割や経済的負担を集中させるか否かの問題である。これまでの宮座研究ではこれに二つの型がみとめられることが明らかにされてきたが、

対象とする地域でどのような傾向がみとめられるか考察するのが第二の課題である。

これらの課題について、考察の結果、次の結論を得た。ひとつは、この地域の宮座の基本的原理は家を単位とする当屋制原理であり、年齢序列はそのなかで個人の地位関係を設定する補助的な役割を果たしていると考えられる。いまひとつは、この地域の宮座は、特定の家に極端に集中させることを避け、複数の当屋が役割を分担したり、費用を負担する傾向が強いと考えることができる。